

## 最も重要なルールとペンキ文化

東日本建設業保証株式会社  
建設産業図書館  
江口知秀  
Tomohide Eguchi

三 月の石垣島は、夏の北海道のように、すがすがしい。この時期がねらい目だと聞いていたが全くそのとおりで、観光客も少なく、市街地のアーケードでは新石垣空港開港の関連イベントを開催しているが、見物人はまばらでしかない。汗もかかず、人混みもなく、私には好都合だ。

石垣島は、八重山諸島の島々へ渡航するための拠点であり、これから私も船に乗り込むわけだが、その前に七三〇記念碑を見におかねばならない。離島フェリーターミナルから歩いてすぐの交差点にある記念碑へと向かう。

沖縄が本土復帰を果たした六年後の昭和五十三年七月三十日午前六時、沖縄県全域は「一国一交通制度」を遵守するため、いっせいに右側通行から左側通行へと切り替えられた。この変更は、実施月日から七三〇と呼ばれ、前日二十九日の午後一〇時から県全域で自動車は通行禁止となり、わずか八時間で道路標識や表示の切替えが完遂された。

わたしは、このニュースを小学生のときにテレビでみたが、これで沖縄は本当にアメリカから日本に帰ったのだと、子ども心に感心したのを覚えている。そういえば学生時代にロンドン、パリを旅したときに、ロンドンでは妙に親しみを感じたのに、パリは

どこかよそよそしく、街を歩くのも覚束なかったのは、お愛想のつもりで使ったフランス語を、鼻でせせら笑ったパリジェンヌのせいばかりではあるまい。

私たちがヨチヨチ歩きを卒業して、アスファルトを踏みしめるとき、親から最初に教わるのが、「右見て、左見て、もう一度右見て」だった。親子のやりとりは、傍からみれば微笑ましいが、親としては真剣だ。順序を間違えれば、わが子の命は危険にさらされる。おぼえの悪い私でも、親の笑顔に逆らえぬ何かを感じたのか、はたまた本能的に命を守るためと理解したのか、「右見て、左見て」は最も重要な交通ルールとして刷り込まれたようで、いまでも自然とやっている。小学生の私が、対面交通の変更にお手柄を感じたのも、そんなところに理由があるのだろう。七三〇当日の沖縄は、いきなりパリから、ロンドンになってしまったから、日曜日にもかかわらず異常な渋滞が発生し、翌日午後までの事故件数は約一五〇件を数えたという。

交差点の角に設置された七三〇記念碑は、ずんぐりとした石碑で、右側通行から左側通行へと切り替わったことを示す絵が、なんと赤青白のペンキで描かれている。ペンキを塗られた石碑をみたのは初めてだ。記念碑の後ろには電飾が吊られているから、

夜は光るに違いない。そういえば、知り合いの建築史家が、幕末以降にアメリカ人が住んだ建築は、ペンキで塗られて、ひどい有様になっていると嘆いていた。わが家の近くにある横浜の本覚寺も、開港当時にアメリカ領事館となっていたが、やはり山門がペンキで塗られ、日本初のペンキ塗装建築の名を冠せられている。ペンキで塗られた七三〇記念碑は、いかにも沖縄らしかった。



730記念碑

[交通]石垣島の離島フェリーターミナルから徒歩約3分

※碑文の全文は日建連HPに掲載しています。